

λ（ラムダ）プロジェクトに関する提案 2017

～北海道新幹線開業後の今を、札幌開業後の未来へつなげる～



平成29年8月

津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議

はじめに

北海道新幹線が開業し早1年が経過しました。昨年7月から9月には「青森県・函館デスティネーションキャンペーン」（青森県・函館DC）が実施され、多くの方が津軽海峡交流圏を訪れました。この効果は大きく、青森地域社会研究所によれば、青森県・函館DC効果による青森県への観光入り込み客数は45万8千人増、青森県への経済波及効果は56億円と試算されています。

一方で、2017年3月に北海道経済連合会・一般社団法人東北経済連合会が発表した「北海道新幹線開業による事業への影響について」という調査結果では、北海道新幹線開業後の効果として、道南地域の企業は新幹線効果を実感しているものの、道南地域以外の北海道企業や青森県企業は新幹線効果を実感していないという結果が示されています。このことから新幹線開業効果は今のところ限定的であるといえるでしょう。

ところで、「津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」の発足当時、会議の中でよくいわれていたことがあります。それは、次のようなことです。

「新幹線開業は地域の活性化をもたらすといわれることがある。しかしながら、新幹線は、地域を活性化する魔法の乗り物ではない。本県におけるこれまでの2度の開業を振り返ってみると、新幹線開業に向けて、しっかりと取り組んだ者だけがその効果を獲得していることが明らかになっている。こうしたことから、新幹線は私達の生活に変化をもたらす可能性を持つツールであるということを今一度念頭に置き、県民一丸となって準備を進めていく必要がある。」（平成25年度「λ（ラムダ）プロジェクトに関する提案」より）

今一度、私たちは原点に戻り、津軽海峡交流圏の形成・発展のために何をすべきか、考えていきたいと思えます。

本年度から「津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」は二期目に入ることとなりました。会議名称から「青森県」を取り、委員の構成も青森県関係者に加えて、道南地域で活動されている方々が加わることとなり、文字通り、津軽海峡交流圏を考える会議体として新たに発足しました。本年度の提案集「λ（ラムダ）プロジェクトに関する提案 2017～北海道新幹線開業後の今を、札幌開業後の未来へつなげる～」はそうした新しいメンバーによる津軽海峡交流圏の未来を考えた提案となっています。多くの“圏民”の方が、この提案集に触発され、行動を起こし、津軽海峡交流圏を盛り上げてくれることを期待しています。

津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議 議長 森 樹男

■目次

I 「津軽海峡交流圏」を形成し、「観光圏」、「経済圏」へ発展させるためにやるべき具体的な取組～北海道新幹線開業後の今を、札幌開業後の未来へつなげる～

4 ページ～43 ページ

津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議からの提案です。

青森県と北海道の委員による「津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議」の初めての提案です。北海道新幹線開業という大きな転換期が過ぎ去り、津軽海峡交流圏を盛り上げるという視点から、北海道新幹線開業を受け、中長期的な視点での提案が求められています。津軽海峡交流圏を盛り上げるために、皆さんの活動のヒントにしていただけると幸いです。

- 平成 29 年度提案…………… 4 ページ～26 ページ
- これまでの提案と取組状況…………… 27 ページ～43 ページ

II 活動事例 44 ページ～54 ページ

津軽海峡交流圏の形成に向けたλ（ラムダ）プロジェクトに関する活動事例を紹介します。

- 活動事例（津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議）
…………… 44 ページ～49 ページ
- 活動事例（企業・団体等）…………… 49 ページ
- 活動事例（行政）…………… 54 ページ～54 ページ

III 関係資料 55 ページ～64 ページ

- 1 津軽海峡交流圏の形成を目指して～λ（ラムダ）プロジェクト～
- 2 津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議名簿
- 3 青森県津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議・津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議の活動記録
- 4 北海道新幹線新青森・新函館北斗間について